

《個別要望》

令和3年度 県予算編成並びに施策に関する要望

町村議会名 宮代町議会

(担当者：小河原議員)

(新規要望・再要望) 何れかに○を付す。

(件名) 高速道路圏央道自治体へのスマートIC設置について

県関係部局： 部(局)

圏央道の県内全線開通によって、県内の高速道路網が充実してきました。  
しかし、県内の高速道路が通過する一部自治体の宮代町ではインターチェンジが整備されていないことから、整備によるメリットが享受できない状況となっております。  
つきましては、交通の円滑化を図るとともに、企業誘致や地域活性化の呼び水となることから、圏央道沿線にある自治体に対しスマートインターチェンジ（IC）が設置されるようお願いいたします。

《個別要望》

令和3年度 県予算編成並びに施策に関する要望

町村議会名 宮代町議会

(担当者: 浅倉議員)

(新規要望・再要望) 何れかに○を付す。

(件名) 都市計画道路「新橋通り線」の一般国道4号線  
までの延伸について

県関係部局: 部(局)

下記理由により「新橋通り線」の早期の予算化を要望いたします。

- ①中島出張所の廃止により杉戸消防署に統合された。宮代町に消防、救急車両が来る際に、早く到着し、宮代町民の安心安全の向上が図られる。
- ②東小学校に隣接する五差路の危険の解消につながる。五差路を通過して4号線に抜ける自動車が多い。特に、朝、夕方の通学時間帯は大混雑する。4号線まで延伸することで、五差路の危険性の解消につながり混雑が緩和される。の向上が図られる。
- ③中島交差点の混雑が解消される。宮代町は車社会であり、朝、夕方の通勤時間帯は中島交差点が混雑する。4号線まで延伸することで、混雑の緩和につながる。
- ④通勤が便利になる。宮代町は1家に2台・3台所有するので車で通勤する家庭が多い。4号線まで延伸することで通勤が便利になり利便性が上がる。
- ⑤新たな人の流れができ、町内経済発展につながる。また人口増民にもつながる。

《個別要望》

令和3年度 県予算編成並びに施策に関する要望

町村議会名 宮代町議会

(担当者：川野議員)

(新規要望・再要望) 何れかに○を付す。

(件名) 姫宮落川の早期改修について

県関係部局：県土整部(局)

一級河川姫宮落川は、久喜市内を起点とし、白岡市及び宮代町を流れ、大落古利根川に合流する延長約10.7キロメートル、流域面積約12.9平方キロメートルで、大落古利根川に至る河川でございますが、先の台風19号の際には、流域の市町においては住宅の浸水や道路冠水に加え、各所で溢水が生じ、農作物等への被害が生じたところでございます。

台風第19号は、昨年10月12日の午後7時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、翌13日の未明に東北地方の東海上に抜けましたが、台風本体の発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響で、静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。

台風19号による被害は、埼玉県内におきましても、入間川や都幾川の流域で大きな被害が発生するとともに、県内各地で未曾有の被害が生じたところであり、宮代町におきましても、住宅の浸水や道路冠水が町の中心部である笠原地区においては発生したところでございます。

姫宮落川については、これまでも計画的に河川改修を進めていただき、東武伊勢崎線の鉄橋付近からみずほの橋までの右岸の護岸工事と道仏土地区画整理事業で整備した調整池脇の樋管の詳細設計進めているところであり、令和2年度につきましても、順次、設計・工事等を進めていただいているところでございます。また、計画区間である県道春日部久喜線と姫宮落川が交差する場所までは既に用地買収が完了したと伺っております。

地球規模での異常気象により、大型台風やゲリラ豪雨などが、今後も多発し、県下市町村におきましても甚大な被害が予想されるところでございます。

つきましては、新型コロナウイルス感染防止対策等への予算の重点配分が見込まれるところでございますが、防災対策予算の確保についても、引き続き積極的な対策が図れるように特段のご配慮をお願いするとともに、姫宮落川の河川改修についてはスピード感をもって改修工事を進めていただきますよう、要望いたします。

また、姫宮落川の改修については、下流部から宮代橋までと伺っておりますが、上流部となる白岡市、久喜市における溢水防止対策として、宮代橋から上流部につきましても改修計画の早期決定と事業化を合わせてお願いいたします。

《個別要望》

令和3年度 県予算編成並びに施策に関する要望

町村議会名 宮代町議会

(担当者：川野議員)

(新規要望・再要望) 何れかに○を付す。

(件名) 主要地方道さいたま幸手線と東武伊勢崎線第163号踏切の立体交差化について

県関係部局：県土整部(局)

主要地方道さいたま幸手線は、朝夕の通勤通学のための自家用車に加え、日中は大型車両が多く利用する路線でございますが、東武伊勢崎線の第163号踏切と和戸交差点の距離が近いことから、慢性的な渋滞が発生しております。また、道路上及び踏切内には歩道がないため、歩行者や自転車の通行に支障をきたすとともに、交通安全上も危険な状態となっております。

また、同路線は、災害時の第二次緊急輸送道路にも指定されており、踏切渋滞の早期解消が求められております。

杉戸県土事務所においては、平成23年度から東武鉄道と検討・協議を続けていただき、平成27年3月には須賀小学校体育館において、県主催で地元説明会を開催されたところでございます。

なお、説明会後の平成27年4月には、地元自治会から「和戸踏切立体交差事業計画に対する要望書」が提出され、現在の踏切は歩行者と自転車専用として存続を要望されております。

このような状況を踏まえ、杉戸県土整備事務所では、踏切閉鎖の代替案として、備前堀川に人道橋を新設する提案を行い、既に用地測量も実施いただいたところでございます。

つきましては、地震災害時の緊急輸送路の確保に加え、日常生活での渋滞解消と歩行者等の安全確保を図るため、早期事業化と整備実施のための予算確保を要望いたします。

《個別要望》

令和3年度 県予算編成並びに施策に関する要望

町村議会名 宮代町議会

(担当者：川野議員)

(新規要望・再要望) 何れかに○を付す。

(件名) 和戸駅西側地内の残土の山の撤去について

県関係部局：環境部・農林部(局)

和戸駅南東側の農地(地目：畑)には、平成11年に農地法の許可を受けずに盛土された残土の山が存在します。

当時は、近隣の住民が町農業委員会に通報し、町では春日部農林振興センターや東部環境管理事務所にもご協力いただき、地権者等に指導を行っていただいたところでございます。

しかしながら、残土の山は今でも存在し、雑草等が繁茂しており、付近には不法投棄が絶えない状況でございます。また、土地所有者は既に死亡し、その相続人も相続を放棄するなど、所有者不在の土地となっております。

また、和戸駅西側地区においては、市街化調整区域ではありますが、駅に隣接しているため、近年、個人住宅の建築が多くなっており、残土の山は景観的にも、環境的にも悪い状態となっております。

つきましては、このような土地は県内各所に存在し、県としても苦慮していることとは存じますが、駅隣接地という立地により、住宅建築が増加していることを踏まえ、県が中心となって、関係各所が連携・協力し、法的支援や財政的支援について特段のご配慮をお願いいたします。

《町村共通要望》

令和3年度 県予算編成並びに施策に関する要望

町村議会名 宮代町議会

(担当者: 丸山議員)

(新規要望・再要望) 何れかに○を付す。

(件名) 健康マイレージについて

県関係部局:

県議会において、予算の削減が出ているが、当町の利用者に年々増えており、予算の減はしないで、もっと全県で取り組んでほしいと望む。